

# 株式会社シーアイエスの 環境保全への取組

CIS Corporation 環境報告書2023

<https://www.ciscorp.co.jp/>

# CIS

# 目次

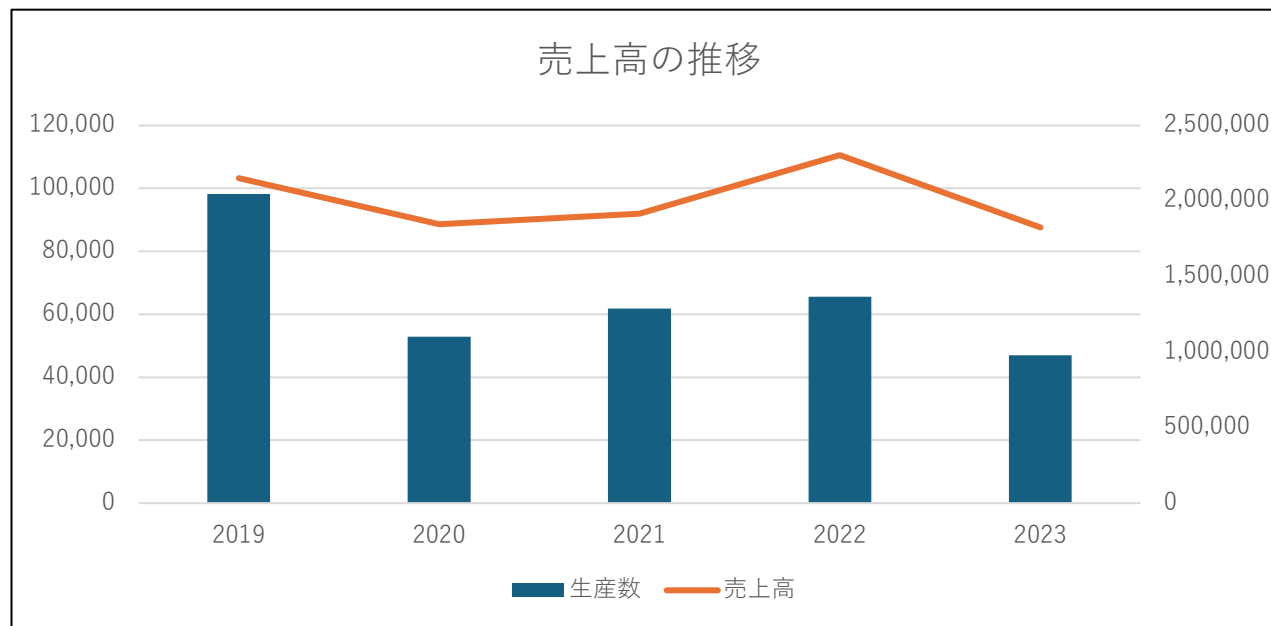
1. 会社概要
2. 環境方針
3. 環境マネジメントシステムシステム
  1. 環境保全体制
  2. 当社と環境の関わり
4. 環境保全への取組
  1. 2023年度行動計画と実績
  2. 2023年度環境データ (1)
  3. 2023年度環境データ (2)
  4. 2024年度行動計画
5. コミュニケーション

# CIS

## 会社概要

- 社名 株式会社シーアイエス
- 代表取締役 村岡祐輔
- 創立 1978年9月1日
- 売上高 18億2,400万円
- 社員数 96名（2023年9月時点）
- 業種 産業用カメラ、イメージングシステムの開発、製造、販売

- 所在地  
【本社・工場】  
〒193-0834  
東京都八王子市東浅川町539番地の5  
TEL 042-664-5535（代表）  
  
【ソリューション開発センター】  
〒164-0003  
東京都中野区東中野5-5-5 徳舩ビル2階、3階



# CIS

## 環境理念及び方針

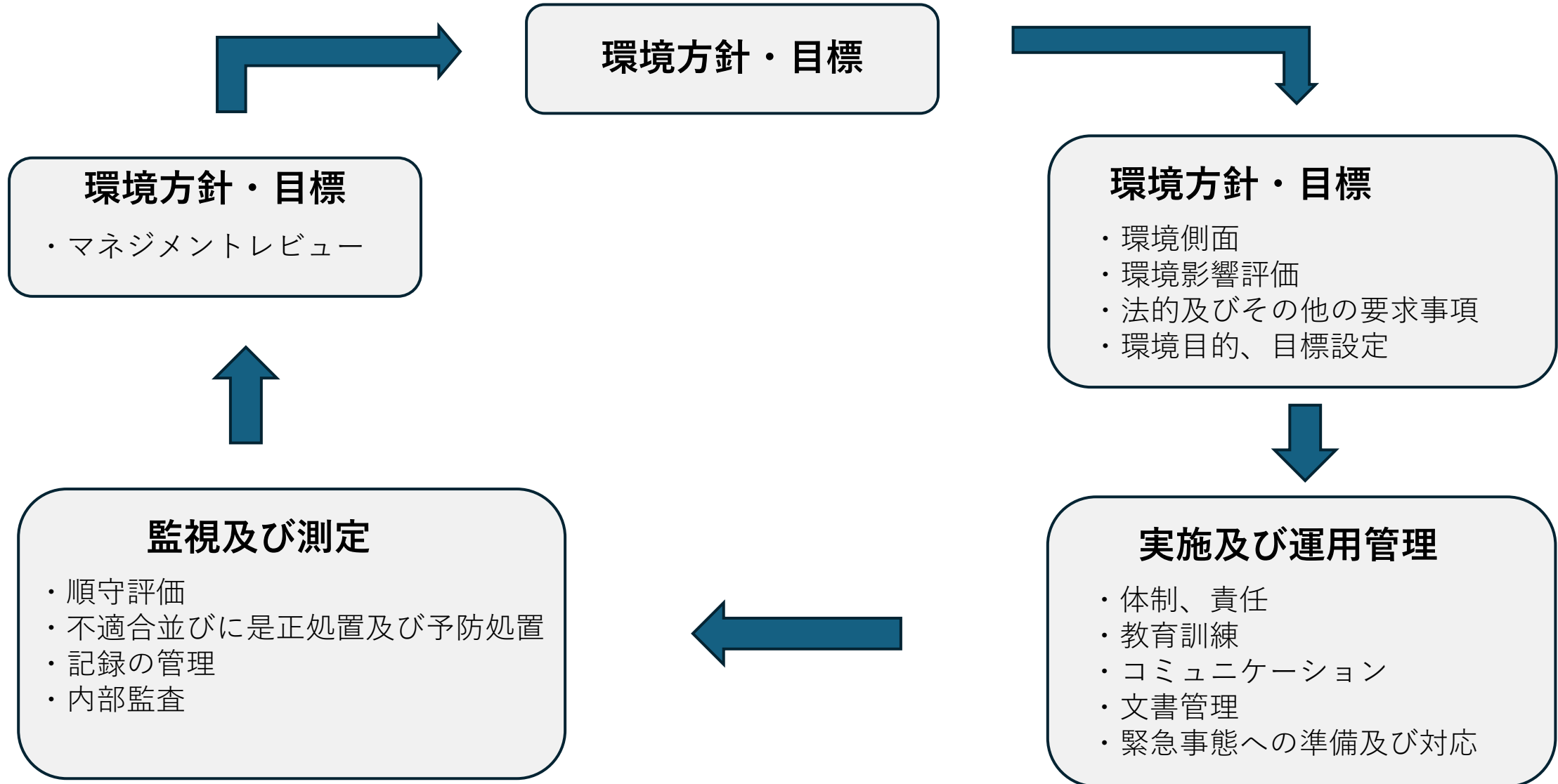
株式会社シーアイエスでは「地球環境を維持向上させ次世代へ引き継いでいく」ことを理念として環境保全活動に取り組んでいます。

具体的には、地球環境に対する負荷低減のために、「環境保全に関する設計のための基準」を整備しております。また、回路の共通化、低電力製品の開発、部品点数の削減の推進を行い、環境配慮型の開発、製品化に注力しております。

### 環境方針

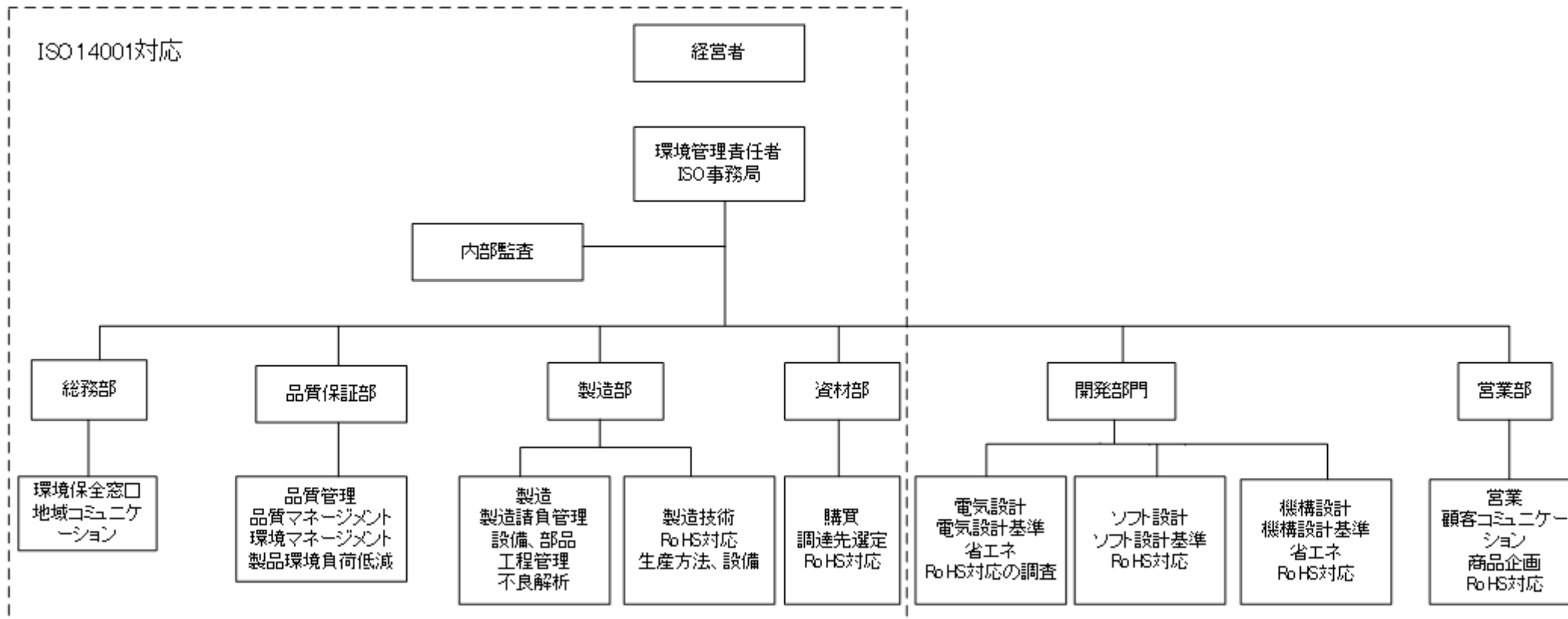
1	環境保全に関する法令、顧客要求を遵守します。
2	当社の事業活動が環境に及ぼす影響を調査・評価し、環境保全への阻害要因が認められる場合には、改善活動を実施します。
3	定期的な内部監査、マネジメントレビューにより、環境マネジメントシステムの維持、強化に努めます。
4	常に省資源、廃棄物・環境関連物質の削減及び汚染の予防に気を配り、環境保全に努めます。
5	環境へ配慮した設計に努め、モノ創りの視点から社会の持続的発展に貢献します。

# CIS 環境マネジメントシステム



# CIS 環境保全体制

組織表



役割

- ・環境保全組織は、環境マネジメントシステムに関する環境側面の特定、登録及び運用上の不適合、その他環境に関わる全ての問題に対して、認識し、その是正処置に取組、改善を図ることにある。また、環境目標、年次行動計画に対する達成状況の確認を行います。
- ・内部監査は、環境マネジメントシステムが適切に運用維持されている事を年一回監査し、不適合があれば是正、推奨事項を提議して、システムの向上を図ります。

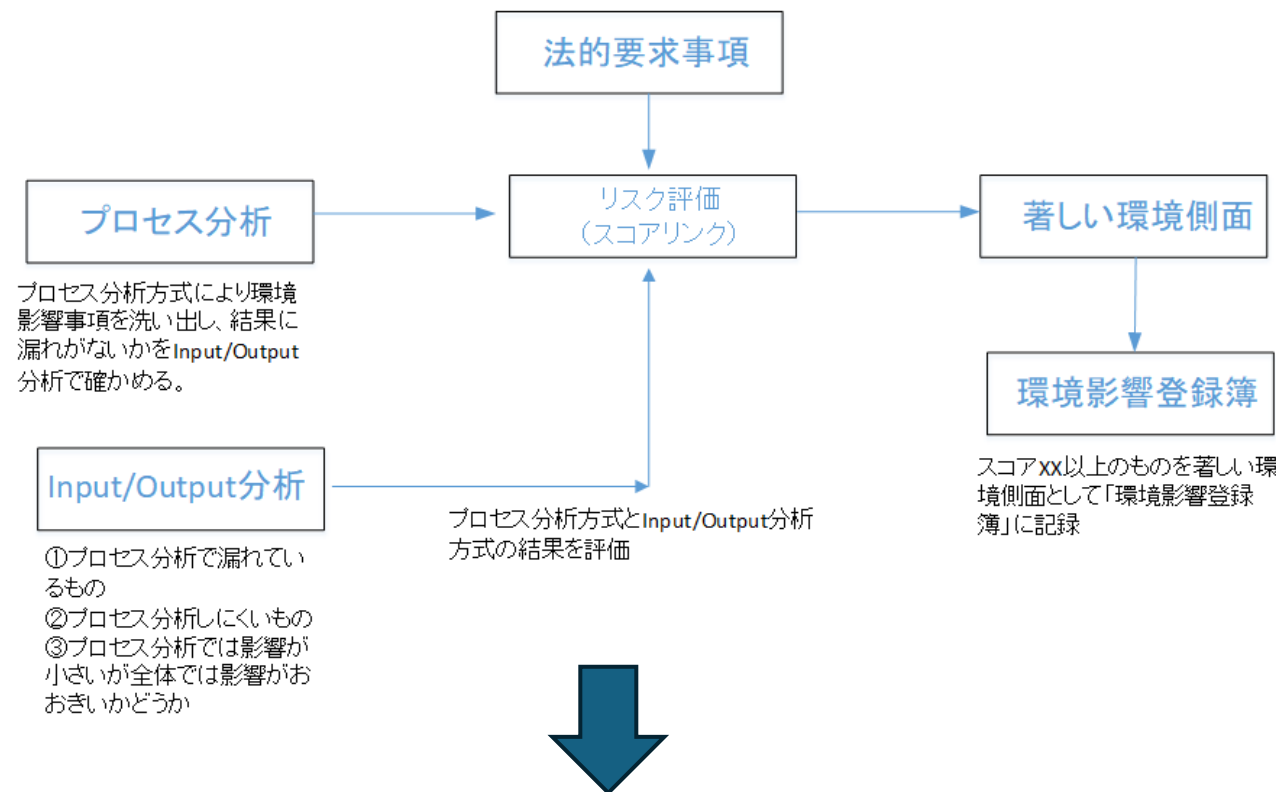
# CIS 環境保全体制

コード No.	規制区分					規制名称	改正・ 改正日	改正事項	規制事項	
	法律	条例	業界	自社	海外					
① 大気汚染	○					大気汚染防止法	2022年3月		煤煙・粉じん・自動車排出ガス・特定物質が規制される。	対象
						大気汚染防止法施行令の一部を改正する政令	2022年4月		解体時における石綿の飛散防止のため、全ての石綿含有建材の事前調査結果報告の義務化。	旧社 対象
	○					都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)	2020年4月		不適合のディーゼル車の規制、排気ガス規制・エコドライブ推奨・低公害、低燃費車の導入	ハイ →1
	○					自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	2007年12月		車種・総重量等によりNOxとPMの排出量が規制される。ガソリン車乗用車は対象外。	対象
	○					化管法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)	2023年12月	電気回線を使っての記録が可能	PRTR制度/SDS制度。令和5年515と134物質に拡大。有害性のある多種多様な化学物質で一種指定化学物質のいずれかを1年間に1t以上取り扱う事業者が対象	該当

法的要求事項一覧表 (例)



著しい環境側面	環境影響	部門			
		管理部 情シス課	資材部 輸出管理部	製造部	品質保証部
電力消費	資源の枯渇・地球温暖化	○	○	○	○
廃棄物	土壌汚染・地球温暖化	○	○	○	○
紙消費	資源の枯渇・地球温暖化	○	○	○	○



# CIS 環境保全への取組

主な取組計画

2023年度 行動計画と実績

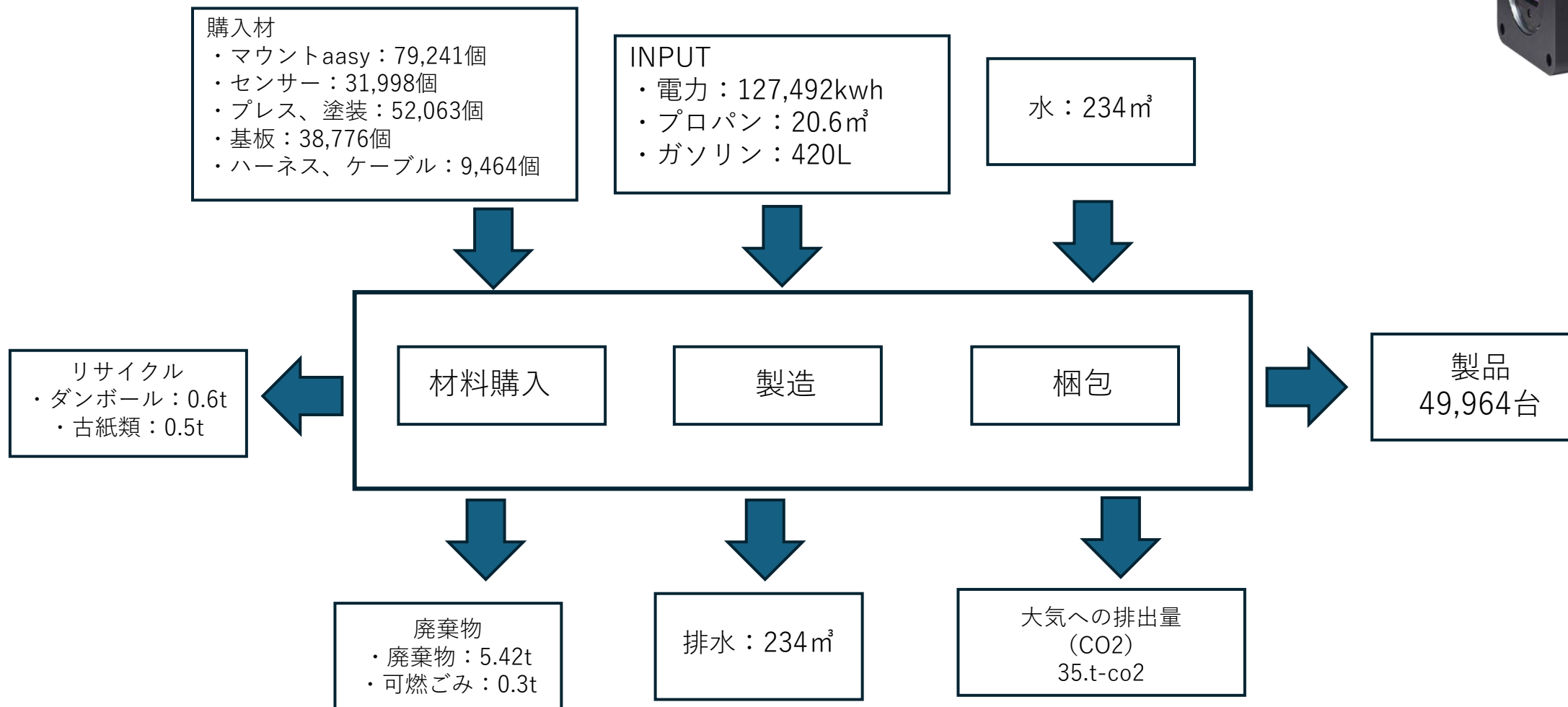
計画Kw		対象/取組内容		実績	判定
品質	ユーザークレームゼロ	製品開発	プロジェクトの日程遅延を減らし早期完了・早期市場投入	プロセス監視シートによる確認	○
			日程遅れに対するリカバリを行い、遅延対応	TeamGantt等で日程を監視し2week以上の遅れに対し早急に対策、または優先度等によるやむなしの場合は認識の共有を図る	○
環境	法令（顧客要求）遵守	法令遵守	環境法令の発令について情報入手し、適用遵守の為、社内対応	法的要求事項一覧表にて管理継続。2023年7月に見直し	○
	電力消費の削減	資源の枯渇	・使用量の監視を行い、最大電力の低減を行う ・省エネ型エアコンへの交換	・2022年9月は56Kwであったが、2023年8月は58Kwになる。 ・食堂エアコンの交換	X
	紙資源の消費削減		目標紙使用量を2500枚とし、社内業務の電子化を推進を行う	通期平均：2004枚となり、目標達成	○
	製品への環境配慮		chemSHERPA最新版対応	Ver2.07/2月リリース。顧客調査依頼に対応した	○
教育	ISO9001/14001/製品環境品質の社内業務関連	ISO9001、ISO14001の要求事項や各マニュアルに沿って、規定・要領の見直しと運用推進		内部・外部監査ならびにISO会議、マネジメントレビューを実施。ISO9001とISO14001の内部監査員の増員を実施	○
	質の向上	社内講習会の実施		年18回の社内講習会を実施	○



# CIS 2023年環境データ (1)

当社が製品化するための、2023年のInput-Outputを下図で表しました。

生産は、20%近く減少しましたが、電力消費や廃棄物の量に変化がない状況でした。可燃ごみなどに含まれていた紙類も分別によりリサイクルするようにしています。



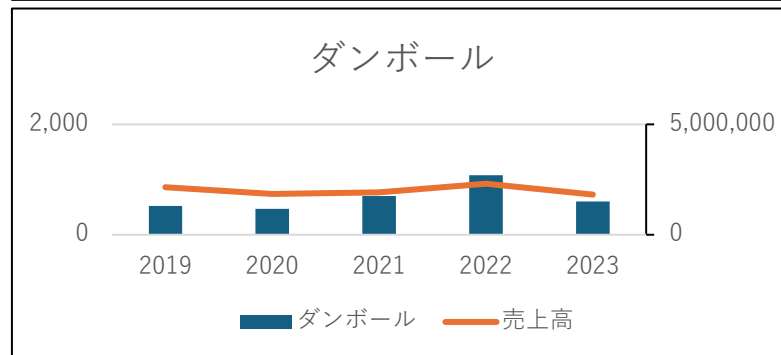
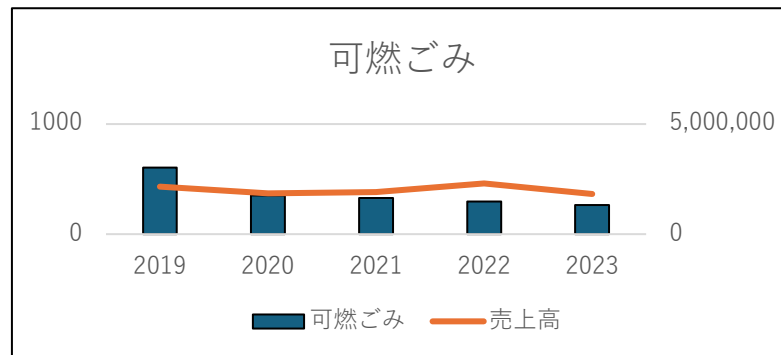
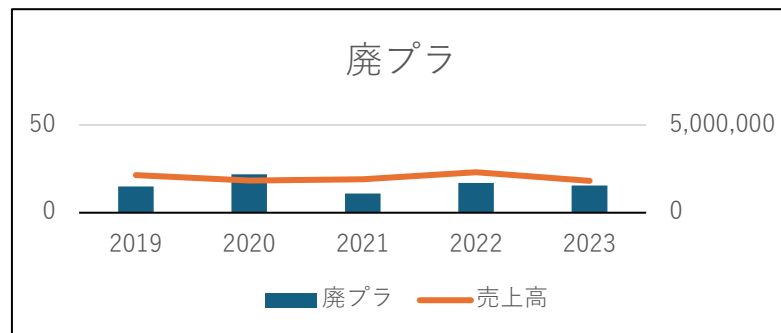
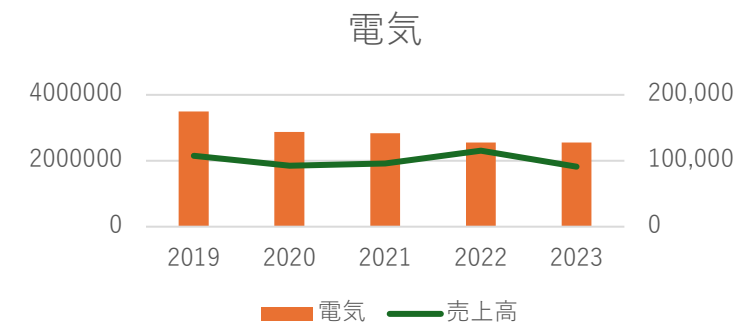
# CIS 2023年環境データ (2)

## 消費エネルギーの節減

2023年の電力使用量は、前年より5%程度減少しています。昨今の原油高騰に伴う電力料金の値上がりもあり、使用しない部屋の消灯、紐付け照明器具の利用、待機電力の削減も進めております。また、クールネット東京の省エネ診断を受けるなどとして、より一層の削減に努めていきます。

## 廃棄物の削減

可燃、廃プラゴミについては、処分方法を含め、社内にて講習会を開催して、分別の強化を実施しており、削減傾向にはあります。ダンボールについては、納入時の業者などへの返却や通い箱利用を行っております。



# CIS 2024年度 行動計画

## 2024年度主な取組計画

◇2023年度の結果をもとに、ISO14001の推進、製品環境化学物質管理の強化、法令遵守、人材育成に重点をおいて計画しています。

計画		対象/取組内容		実績
品質	ユーザークレームゼロ	製品開発	プロジェクトの日程遅延を減らし早期完了・早期市場投入	プロセス監視シートによる確認
			日程遅れに対するリカバリを行い、遅延対応	TeamGanttで日程監視し、2Week以上の遅れに対し早急に対策
環境	ISO14001対応フォロー（東中野の自主管理）	製品への環境	環境目標の設定および関係書類の整備	監査結果の適格
	廃棄業者の監視	資源消費低減	廃棄業者と最終処分迄のマニフェストを監視する。	マニフェストの法定期間内回収と電子マニフェスト利用推進
	紙資源の消費削減	資源消費低減	目標紙使用量2000枚とし、社内業務の電子化の推進を行う	環境月報にて利用状況の報告
	法令遵守	法令遵守	環境法令の発令について情報を入手し、適用遵守の為、社内対応	法的要求事項一覧表にて管理継続
教育	ISO9001/14001/製品環境品質の部内業務関連	ISO9001,ISO14001の要求事項や各マニュアルに沿って、規定・要領の見直しと運用推進		内部・外部監査ならびにISO会議、マネジメントレビューを実施。ISO9001とISO14001の内部監査員の増員
	質の向上	社内講習会の実施		年間20回以上の開催

# CIS

# シーアイエスのSDGsの取組



社内講習会の充実



LED照明設備の導入  
環境対応エアコンの導入



フルフレックスタイム制度導入  
テレワークの推奨  
1時間単位での有給取得



産休・育休取得の支援  
介護支援・時短正社員制度



製品への環境配慮



ペーパーレス化

# CIS コミュニケーション

地域活動

年末に高尾本社周辺の美化活動を行いました

## 環境コミュニケーション

当社は、環境保全活動及び環境マネジメントシステムに関して、内部及び外部コミュニケーションを推進しております。

- ・ 部内会議などで社員の意思疎通を推進
- ・ 環境月報を毎月、社内サイトに掲示し、情報を発信
- ・ お客様からの情報による環境教育、グリーン調達活動の意識向上

## 苦情、事故の発生状況

行政への報告に該当する事故や行政罰などはありませんでした。

## 苦情、事故の発生状況

環境保全活動及び環境マネジメントシステムを推進するため、社員の意識向上を図ることが大切だと考えております。2023年度も継続して、製品環境を含めた環境保全活動の教育をしてきました。

SDGsの取組を含め、外部研修や内部での講習会を実施していきます。

発生内容	件数
臭気に関する苦情	0件
騒音、振動に関する苦情	0件
大気に関する苦情	0件
土壌に関する苦情	0件
水質に関する苦情	0件
地盤沈下に関する苦情	0件



## リスクマネジメント

火事や震災など、自然災害に備えて、自衛消防隊を組織して、所轄消防署に避難訓練の実施報告をしております。

BCPの策定や震災などの大規模災害発生時の対応の講習会を実施したり、水・食料などの備蓄を行うようにしています。